吉本新喜劇を退団し、今年で27年。芸人を辞め、教育の世界に飛び込んだつもりですが、すてきなご縁に恵まれ、6月21日、島田珠代さん＝写真＝と大阪成蹊大のオープンキャンパスでトークライブを行うことになりました。

珠代さんといえば、言わずと知れた吉本新喜劇の看板役者。舞台

大阪成蹊大准教授　福岡亮治

⑪ 島田珠代さんと共演

人生に無駄な努力はない

に登場した瞬間に空気を変え、世代を超えて笑いを届けられる芸人さんの一人。そして、大学の併設校である大阪成蹊女子高の卒業生でもあります。そんなご縁もあり、大学から出演のオファーをしたところ、ありがたいことに快く引き受けてくださいました。

私は現在、教育学部の大学教員として理科教育を担当していますが、その前は新喜劇の劇団員として舞台に立っていました。新人時代から珠代さんの背中を見て学び、同じ舞台に立たせていただいたこともあります。元劇団員ということで、珠代さんにも私のことを認識していただいています。そうした経緯もあり、今回、大学側から相手役として声をかけていただいたのだと思います。

もちろん緊張しています。しかし、それ以上にうれしい気持ちでいっぱい。もし大学教員になっていなければ、こんなすてきなオファーをいただくことはなかったでしょう。「ここまで頑張ってきてよかった」。そんな思いが自然と込み上げてきました。

さらに今回の仕事は元芸人だったからこそ得た機会でもあります。実は大学教員になる時に、「元芸人」という経歴が評価されることはほとんどありませんでした。求められるのは研究実績、教育実践、大学での授業力、学生への指導力。世界が違いすぎて、そこでは芸人時代の肩書はほぼゼロからのスタートでした。

それでも一つ一つを積み上げ、大学教員という道がひらけました。そこに元芸人という経歴が合わさり、今回の話につながったことに喜びを感じています。

人生に無駄な努力はないのかもしれません。小さな時からの習い事、中高での部活、大学生の時のアルバイトやサークル活動、社会人になってからの経験など、一生懸命頑張ったことは、思いもよらない形で報われることがあります。直接的な効果がなくても、根幹で支える力になることがあります。だからこそ、がむしゃらに努力することも大切なのだと改めて感じています。

京都新聞社
The Kyoto Shimbun Co.,Ltd.
© 京都新聞社　無断複製・転載を禁じます